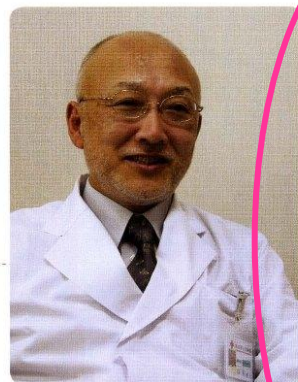




表◆ローリスク妊婦・ハイリスク妊婦・一時的リスク妊婦の基準と医師と助産師の役割分担

Table with 2 columns: ローリスク妊婦基準 (助産師外来) and ハイリスク妊婦基準 (助産師外来-医師外来). It lists various medical conditions and criteria for each risk category.

産科医の過重労働に対する緩和策の一つとして近年期待されているのが「助産師外来」だ。深谷赤十字病院では、約20年前から助産師の職能を生かした「助産師外来」を実践しており、その成功のポイントを同院の山下恵一副院長・産科部長に伺った。



深谷赤十字病院 副院長・産科部長 山下恵一先生 Keichi Yamashita. 1973年東京慈恵会医科大学卒業。1977年同大学附属病院産婦人科医員、医長、同大学助手、講師を経て、84年7月、深谷赤十字病院産婦人科部長に赴任、2007年より現職。東京慈恵会医科大学准教授。

産科医不足対策の切り札に「助産師外来」

域の中核病院として、「地域周産期母子医療センター」の役割をも担っている。ハイリスクの産科医療といわゆるローリスクの通常分娩の両面において、地域医療に役割を果たさねばならない課題を抱えている同院は、その解決策として「助産師外来（当時は助産婦外来）」を1999年に開設した。同外来の開設者である山下副院長・産科部長は、立ち上げの経緯を次のように振り返る。

トし、助産師の基本的な役割を次のように定めている。
●正常範囲の産科診療は助産師が行う
●外来では妊婦健診から助産師が行う
●合併症などを持つハイリスク妊婦には助産師と産科医がかかわる
また、リスク判断の基準（表）を定め、医師と助産師の役割分担を明確にした。
「助産師は妊婦さんの不安に対して「大丈夫」といってあげることが重要な仕事です。自ら妊婦健診からお産まで、そして母乳などの育児指導までを行うことで、その「大丈夫」という言葉に確信した裏付けが持てるようになったと思います。それが助産師という職業の醍醐味でもあります。戸惑いや不安に上りやがいが強く感じました」と新井助産師長は職能としての自律を実感している。

一人だ。
「開設当初は助産師によって「助産師外来」に対する気持ちに温度差があったかもしれませんが、辞職した人はいません。もちろん自分の診察だけで、誤った判断をたらとの不安はありましたが、山下先生が「最終責任は取る」と明確に意思表示して下さったことが心強かったです。」
不安以上に大きかった職能としての醍醐味
本格的な「助産師外来」の開設に向けて、システムの構築とスタッフトレーニングの準備期間として約1年設けた。トレーニングの中心となったのは、
●リスク判断のための内診
●エコー検査
である。内診は助産師が産科医から指導を仰ぎ、レベルの上があった助産師が別の助産師にも指導するという形で効率的に行われた。エコー検査は、全例に対して入院時に実施するようにし、助産師が経験を積み重ねられる仕組みを作った。
そして、2カ月間の試行期間を経て、91年10月、「助産師外来」がスタートした。

深谷赤十字病院
埼玉県深谷市上柴町西5-8-1
http://www.fukaya.jrc.or.jp/
開設年月日: 1950年11月1日
職員数: 609人
病床数: 506床 (一般500床、感染病6床)

